第６分科会　広報紙研修会

テーマ　「伝えるおもしろさ」

ソーゴー印刷代表取締役
フォトグラファー
高原　淳　氏

月刊「しゅん」編集者
太田　菜つみ　氏　　前田　美由希　氏
中田　千晶　氏

魅力ある広報紙の作成

「心豊かな広報紙」

〇読み手が求めている情報と作り手が提供する情報をユニークな切り口で。
〇雑多な情報から選りすぐりの情報を整理して効果的な紙面に。
〇取材先へ出向くことで新たな発見。（学校にも今まで知らなかった未知の情報が！）

「レイアウト」

〇Simple is best！
〇文字の大きさに注意。
〇見出し、文章、写真の量的バランス。
〇写真は効果的に→大小のメリハリをつけ、記事の内容に合ったものを。

「企画」

〇発信相手を明確にし、共感がもてる情報を。
〇視点を変え、アンテナを張り、気になったことはメモに。
〇先生や子供の話からヒントを得る。
〇企画持ち寄り会議(リストアップ)。

「ブレーンストーミングの手法で模擬会議」（１５分程度）

〇テ　ー　マ：月刊しゅん８月号「夏休み家族向けグルメ特集」
〇制限時間：２分
〇付　せ　ん：１人２枚
※６グループに分かれ会議を実践→「しゅん」８月号に取り上げられる企画があるかも？

１人の意見を通すのではなく、全員が持ち寄った意見を合わせて考えていく。議長が出席者に意見を求めるよりは、全員の意見を吸い上げることができ、クリアな話し合いができる。

「ブレーンストーミング」とは？

　少人数グループで、全員が自由に意見やアイディアを出し合うことで、案をまとめたり、新しい発想を生み出す手法。(「開発教育・国際理解教育ハンドブック」より)

■必要な物

大きめの付せん（メモ用紙でもＯＫ）

ホワイトボード用ペン（マジックペンなど離れた場所から見える太さのもの)

ホワイトボードまたは黒板、模造紙でもＯＫ(付せんを貼って書き込める)

■ルール

アイディアは付せんに書き無記名で出す

出てきたアイディアを否定しない

座席は「○」や「□」が基本形

■手順

１.話し合いのテーマをはっきりさせる

・「広報紙にどのような企画を盛り込むか」など、一言で言い表せるとよい。

２.自由に意見を書き出してもらう。

・付せん１枚にアイディアは１つだけ書く。

・制限時間を決める。

３.順にアイディアを出し合いながら、まとめていく

・似ているアイディアが書かれた付せんは、重ねていく

４.付せんのまとまりにタイトルをつける

５.まとめ（結論）

※参考　●「会議革命」斉藤孝　●「板書の極意」

デジカメ写真講座

「テクニックだけじゃない」

○楽しみながら撮る。

○被写体に心が反映する。

○コミュニケーションのスタイルが影響。

「取扱説明書はきちんと読もう」

○初期設定を確認すべし。

・強制ストロボ発光は設定変更で手動に→目に見えたものをそのまま写すことが基本。

・露出補正→モニターで確認して明るさを調整。

「魅力的な写真」

○いろいろな角度から。

・子供はローアングルで。

○さまざまな距離感で。

・ズームではなく、ググッと近づいて迫力あるものを。

・二歩引いて全体像を。

○人物だけなく、校舎、道具、小物、植物なども撮影する。

・場の雰囲気を立体的に伝えることができる。
・記憶が蘇るような写真を残す。

「テクニック」

〇一手間かけよう。
・逆光こそチャンス！露出調整は＋２→教室など窓からの日差しの影響を受ける場合など
・周囲が暗くスポットライトが当たるような被写体には露出調整を－２→学習発表会など
〇ピント合わせ。
・シャッターを半押し、構図を合わせてから撮影→オートフォーカスに頼りすぎない。
・置きピンや流し撮り→運動会など。
〇手ぶれ防止機能はアテにならない。
・カメラをしっかり構える→三脚や固定物の利用。

グループディスカッション

色々な広報紙を見て、優れている点や気づいた点などを抽出し、どんな広報紙が良いのかグループごとに話し合い発表する。（配付資料：全市小中学校広報紙）

～参加者より～
ＰＴＡ広報紙では運動会や学習発表会など行事が特集になることが多く、内容はほぼ決まっている。記事も２～３人でまとめることが多い。

道Ｐで入賞する広報紙は、学校行事よりもＰＴＡ行事を記事に取り上げている。
広報紙審査委員より

Ａグループ（発表者：広陽小＊ムラカミ）

啓北小広報紙が目を引いた。各校で予算の違いなど諸事情はあるが、機会があれば取材状況やいつからこのような形態になったのかを話を聞きたい。

Ｂグループ（発表者：東小＊クマモト）

色遣いについて話題になった。予算の都合上、フルカラーは難しいので、１色刷りだと何色がいいのか？

講師回答／フルカラーでも部数やオンデマンド方式で安い場合がある。印刷会社と打ち合わせを。刷り色より紙質が大事。光沢紙より上質紙の方が目にやさしい。色は好みである。

Ｃグループ（発表者：二中＊タチザキ）

手書き文字を使用したものは、活字より目につき、暖かみがある。各学校の役員紹介、各部活動紹介は、具体的であり、ＰＴＡに関わるスタートになるのでは。先生インタビューに工夫が見られたものがあり参考になった。

Ｄグループ（発表者：栄小＊カシマ）

対話形式の広報紙はすばらしい。見るのがＰＴＡなので何に興味を持ってくれるのかを話し合った。

Ｅグループ（発表者：豊成小＊サトウ）

色々な写真、子供、先生、役員、良い表情、楽しそうな表情がうまく撮れている。カラーで柏小の表紙の写真はとても良い。啓北、１中、全道で入賞したということで、感動した。自校も自負していたが、参考にさせてもらった。

Ｆグループ（発表者：啓北小＊カトウ）

手書きの広報紙がよかった。クラブ紹介の中で、中学入学時にどのくらい金額が必要かなどはすごく参考になる。啓北小では、学校行事だけでなくＰＴＡ行事中心に企画。原稿依頼ではなく、すべて取材で記事を掲載。他校の活動状況も知りたい。写真はいろいろ参考にさせていただきたい。

Ｇグループ（発表者：柏小＊サムカワ）

どんな広報誌を読みたいのか、親の本音はどうだろう？ということで話した。文字ばかりでなく自分の子供の写真があるとうれしい。大人の文章だけでなく子供の声が取り上げられているとおもしろい。修学旅行の記事で、表現方法が非常に工夫されていて感心した。ＰＴＡ図書欄では、図書告知だけでなく、ランキングなど興味を持てるものがあり、見習うべき。

講師総括

他校の紙面を細かく見て観察すると発見がある。予算の諸事情で見栄えの点で違いはあるが、少ない予算の中できちんと作られている学校もあるので、そこから学ぶことも必要。

楽しく作る、熱心に作ることが魅力的な広報紙になる。熱心に作るとアイディアが浮かぶ。

忙しい日々を過ごしていると思うが、限られた時間の中で、何十年も残しておきたい広報紙を作っていただきたい。

＝Ｄａｔａ＝

日　時　平成２２年６月１９日（土）１４：３０～

場　所　とかちプラザ　視聴覚室

参加者　５８名

司　会　小野成美（豊成小）

運営者　高澤義典（明和小）

記録者　石川里香子（広陽小）